環境大臣賞

④

「2014 こどもホタレンジャー」
活動報告用紙

※この用紙には、先生や団体の代表者の方が記入してください。

① 団体名 （学校、企業、NGO/NPO など）	ひがしひろしましりつよしかわしょうがっこう 東広島市立吉川小学校
③ 活動名「タイトル」	よみがな　よしかわしぜんふたい 吉川の自然増やし隊！～ホタルがまうすてきな吉川をつくろう～
④ 活動場所	吉川小学校　及び　校区を流れる古河川
⑤ 今回活動したこどもの学年・人数	（例：小学〇年生　〇人、　中学〇年生　〇人　） 小学３年生　３人　４年生　13 人
⑥ 活動期間	2014 年　４月　８日　～2015 年　３月　10 日（※継続年数　　０　年）
⑦ おもな受賞歴	なし

⑧ 団体（学校・企業・NGO/NPO など）の紹介（400 字程度で簡潔に）

本校は，全校児童５５名の小規模校で，３．４年生は今年度本校初の複式学級となりました。山に囲まれ田園風景が広がる自然に恵まれた環境の中，心温かい協力的な地域の方々に支えられ，児童は互いを思いやりのびのびと生活しています。近年の本校の研究教科は，生活科・総合的な学習の時間で，地域の人やものとのかかわりを軸に「主体的に学び，ふるさと吉川を創ろうとする子どもの育成～思考力が高まるかかわり合いを通して～」という研究テーマのもと，地域教材を使って単元開発をしたり授業スタイルを研究したりし，１１月１９日には，その研究の一端を教育研究会で公開しました。

長寿会の方が中心になってお世話をされている長寿の森へは，春のお迎え遠足，秋のまつたけ山見学に全校で出かけ，秋にはおいしいまつたけご飯やまつたけ汁をいただくなど，地域の方との交流も盛んで，児童はふるさと「吉川」に愛着と誇りをもって生活しています。

⑨ 活動の目的・概要（500 字程度で簡潔に）

報告するメインの取組に〇を入れてください。

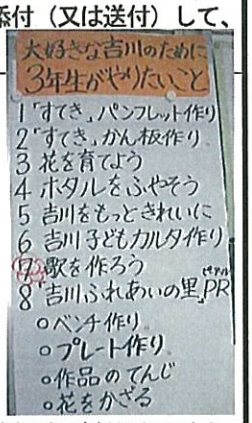
	ホタルや水辺の生きものに関する観察・保全活動などの取組
〇	河川など水辺における活動を基本とした、水環境の保全に関する取組
	いなくなったホタルや水辺の生きものを呼びもどす取組

自然豊かな校区の「よさ」見つけから，「もっとホタルを増やしたい」と願うようになった児童は校区を流れる古河川に着目し，川探検をしました。また市内で 28 年もホタル祭りを開催している学校とも交流を図りながら，子どもたちにできることを考え，実践してきました。地域の方が行っておられる炭作りの活動にも一緒に参加させていただきながら，地域の人との交流もさらに深め，炭を川に入れる浄化活動やクリーン作戦，啓発・広報活動などを行ってきました。専門家とともに生き物を探すフィールドワークを行ったり，企業の方のお話を聞いて水の役割を考えたりする機会を設けたり，個人やグループでテーマを決め，保護者や地域の方へのアンケート調査やパックテストによる水質調査，炭を使った実験や廃油石鹸作りなどを行ったりし，ホタルを増やすためにできることについて考えていきました。これらの活動を通して，地域に誇りをもち，自然を大切に思い地域貢献のできる子に育ってほしいと願っています。

⑩　活動の内容について、流れがわかるように記入してください。
なおその際、活動の成果（調べた内容や達成した内容）も写真やイラストなどを可能な限り添付（又は送付）して、可能な限り具体的に記載してください。

第０次　すてきな「吉川」を増やすために

現４年生が，３年生時に総合的な学習の時間で吉川の「すてき」を増やすためにやりたいことについて話し合った際，「ホタルを増やそう」という発言があった。今年度，複式学級になり担任が持ち上がったこともあり，今年の総合的な学習の時間についての話し合いで，その掲示物を提示し，３．４年合同で考えさせた。そして，やり残したことの中から「ホタルを増やして『すてき』も増やしたい」という意見が児童からあがり，学習を進めていくことになった。



〈昨年度児童が考えたこと〉

第１次　古河川の実態調査し隊

児童は，吉川にホタルが飛んでいることを知っていたが，実際にホタルがすみやすい環境なのかを知るために，まず，古河川をたどって川の様子を観察した。その結果，古河川は護岸工事が施してあるものの適度に草や土があり，ホタルの幼虫がすめそうな環境だということが分かった。

次に，川にどんな生き物がいるのか，また，水はきれいなのかを確かめるため，市の主催する「生涯学習まちづくり出前講座」の中から「川を通じて地域の環境を学ぶ」というテーマの講座を開催してもらった。市役所環境対策課から２名の方が来られて，川に入っての生き物調べや指標生物をさがして水質調査をすることなどを行った。結果は，古河川は水質階級「２」の「ややきれいな川」であった。

この時，川の水の汚れの原因のほとんどが生活排水であることも聞き，児童は水を汚さないように気を付けたいという思いを強くした。

〈出前講座での水質環境調査の様子〉

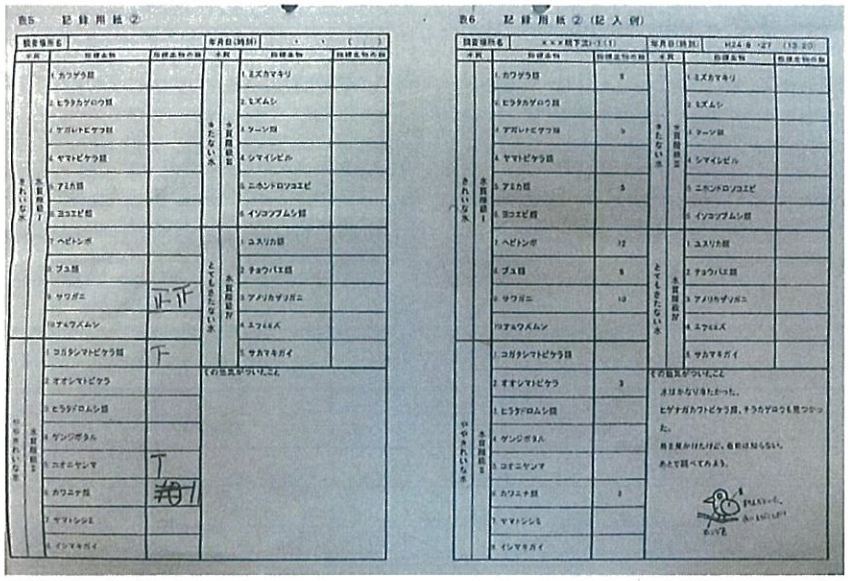


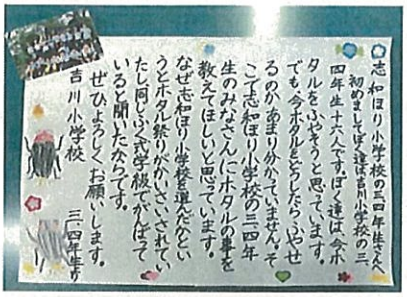
表5　記録用紙②

表6　記録用紙②（記入例）

第２次　志和堀小学校の友達から学ぼう

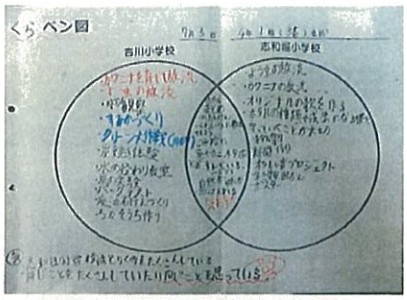
児童は，古河川の実態が分かりホタルの生態などについても調べたが，具体的にどのようなことをすればホタルが増えるのか分からず，困った状態であった。そこで，市内でホタルのことを長年取り組んでいる学校があることを知らせた。児童は，ぜひ取組の様子を聞いてみたいということで，お願いの手紙を書き，交流を始めることになった。

後日，詳しい活動内容が書かれたものが届いたので，自分たちがやってきた活動内容と志和堀小学校で活動されていることをベン図にまとめて比較し，座標軸で整理しながら今後活動していくことを決めていった。


志和ほり小学校の三四年生さん
初めましてぼく達は吉川小学校の三四年生十六人です。ぼく達は、今ホタルをふやそうと思っています。でも今ホタルをどうしたらふやせるのかあまり分かっていません。そこで志和ほり小学校の三四年生のみなさんにホタルの事を教えてほしいと思っています。なぜ志和ほり小学校を選んだかというとホタル祭りがかいさいされていたし同じ六学級でがんばっていると聞いたからです。
ぜひよろしくお願いします。
吉川小学校
三四年生より

〈交流を依頼する手紙〉

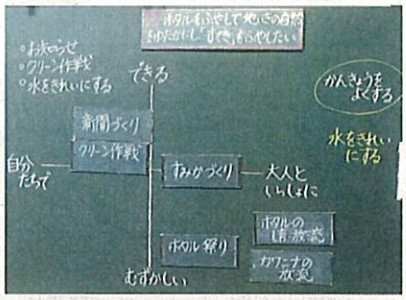
〈志和堀小学校からの手紙〉



〈ベン図で２校の取組を比較〉

〈グループでの話し合い〉

〈全体での話し合い〉



〈座標軸でやりたいことを整理〉

第３次　自分の課題を詳しく調査し隊

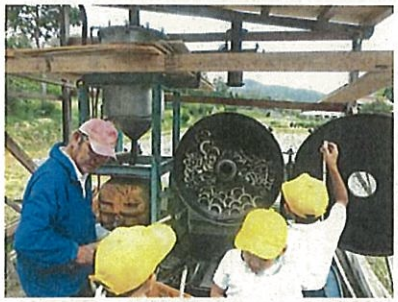
夏休み明けに企業の方のご協力による「水の役割教室」を行った。ここでも生活排水が水を汚していることや「人は水を使わせてもらっている」という意識をもつことの大切さを学んだ。

また，自然のろ過作用を再現する「ミニろ過装置」も作り，水の浄化作用のある炭の働きに目を向けられるようにした。

この後，地域で炭作りに取り組んでおられる「なんじゃもんじゃの会」の方といっしょに炭を作る体験をさせてもらった。

実際に体験することで，高温で長時間，空気の調整をしながら炭が出来上がることが分かり，有意義な活動となった。

〈企業での取組を聞く児童〉



〈炭作りで竹を窯に入れる様子〉

〈できた炭を窯から出す作業〉

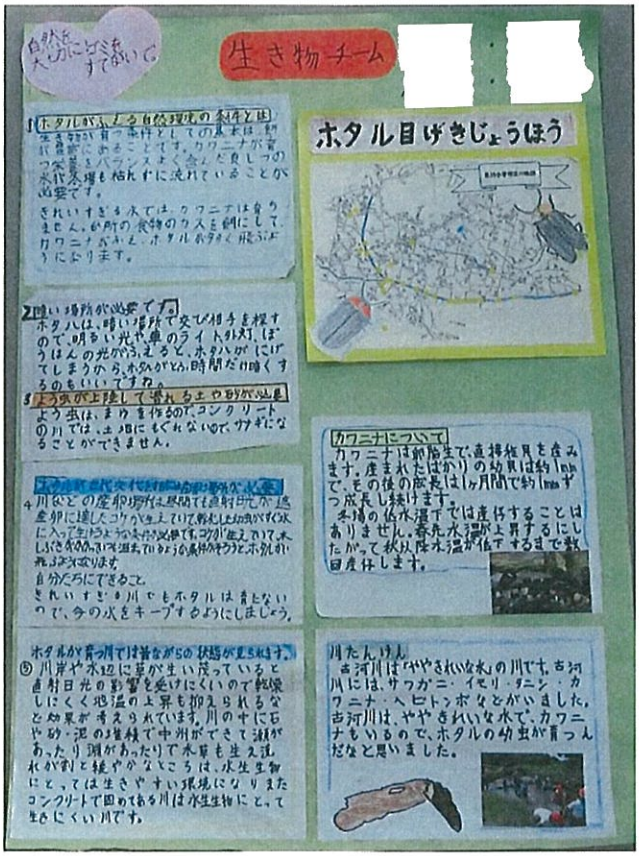
〈ミニろ過装置作りの様子〉

学級では４つのグループを作り，ホタルを増やすための願いを達成させるために各グループで活動計画を立て，課題を追究していった。

４つのグループと活動内容や願いと主な制作物は，次のページのとおりである。吉川文化祭という地域の方がたくさん集まられる会で地域の方にお知らせすることを一つのゴールとして計画的に活動を実施できるようにした。調べても分からない内容や新たな疑問ややりたいことが見付かった場合，これまで交流をしてきた方にお願いする手紙を書いて届けたり渡したりし，課題を解決させていった。

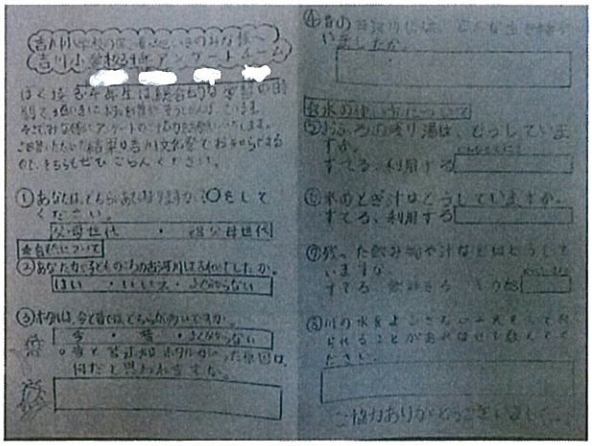
生き物チーム

育て方が難しいと言われたホタルのエサになるカワニナを飼育したり，生き物がすみやすい川について調べたりしたよ。
吉川にホタルや生き物がたくさん増えるといいな。



アンケートチーム

保護者や地域の方に生き物や水の使い方などをアンケートで聞き，その結果から今と昔の様子を比べて考えていったよ。
昔のように，吉川にホタルがたくさん飛ぶといいな。



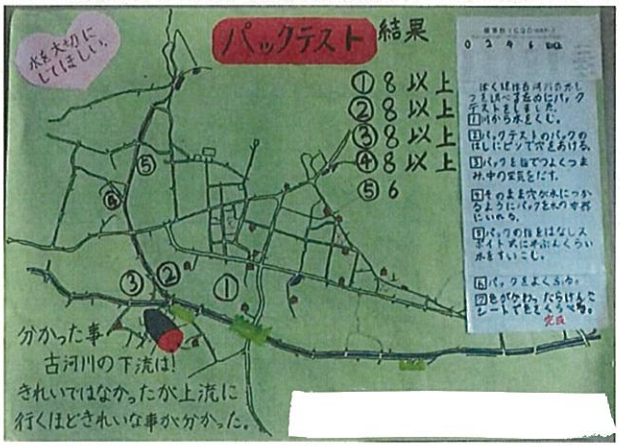
〈児童の作ったアンケート〉

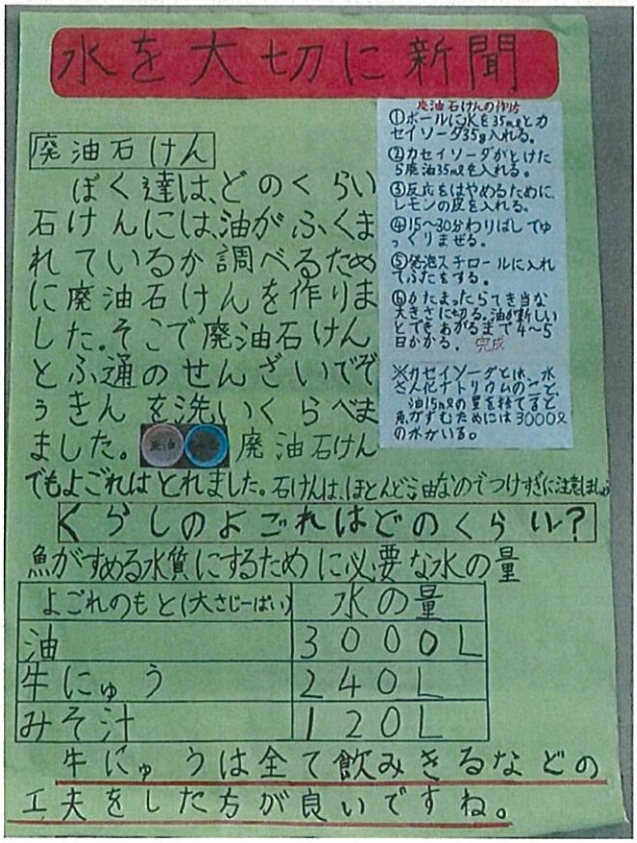
ウォーターラボチーム

炭や植物の水をきれいにする力を実験して調べたよ。ろ過装置の仕組みを使って森の働きを知らせたよ。
吉川にホタルがたくさん増えるといいな。

水をきれいにチーム

水をきれいにする工夫を調べ、パックテストで川の汚れを調べたり廃油石鹸づくりをしたりしたよ。
生き物がすみやすいように水が今よりもっときれいになったらいいな。





吉川文化祭で活動や取組を掲示することが決まってから，１人の児童が掲示物を見てくれた人に炭をプレゼントしたいと言ってきた。そこで，なんじゃもんじゃの会の方にお願いの手紙を書き，竹炭を分けてもらうことができた。

当日は児童が進んでプレゼント用の炭や廃油石鹸を渡しながら児童が行っている活動を広報し，用意していたものを全部渡し掲示物を見ていただくこともでき，満足していた。

〈炭を分けてもらえるよう依頼〉

第４次　吉川文化祭でお知らせし隊

より良いものを吉川文化祭で掲示するため，事前に６年生に見てもらいアドバイスをもらった。また，文化祭当日アンケート用紙を準備しておき，見ていただいた地域の方などから感想をもらった。さらに，順序が逆になってしまったが志和堀小学校の３．４年生にも見てもらい，感想をもらった。

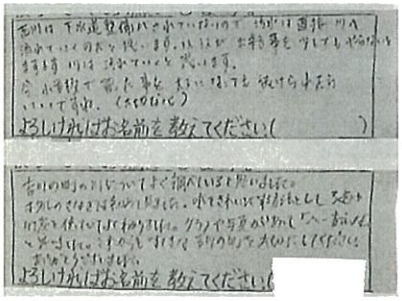
これらの活動をする中で，活動のよさを実感したり達成感を味わったりすることができた。

吉川の地域の人に自分たちの願いや活動を伝えらることができたので，次は川は海まで続いているから，もっとたくさんの人に知らせたいという児童の願いを出前講座でお世話になった市役所環境対策課の方に伝えたら，「市役所に掲示してもよい」という嬉しいお話をいただいた。

掲示物を見ていただく対象が変わるということで，自分たちの活動内容を再考し，「自然環境を守ってホタルを増やす」という願いが伝わるよう，さらに取材内容を吟味し活動を継続させながら，グループごとにA1サイズの紙にまとめていった。

完成した掲示物は、１月から約１か月間，市役所２階の環境対策課前に掲示させていただき，広く市民の方に見ていただく。

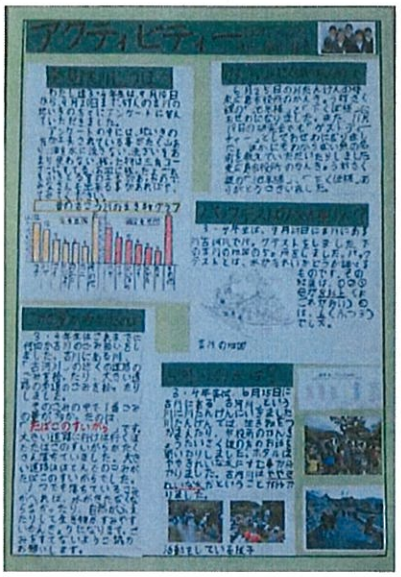
〈吉川文化祭の様子〉



〈吉川文化祭でいただいた感想から〉

〈生き物グループ〉

〈水をきれいにグループ〉



〈活動グループ〉

吉川文化祭の後，川の水の浄化に少しでも役立つようにと，なんじゃもんじゃの会の方にお願いして一緒に川へ炭を入れる活動をさせてもらった。パックテストの結果から，児童は汚れの多い場所に炭を置きたいと考えたが，水の流れに耐えられることなども考慮して，３か所に炭を入れた麻袋を入れた。今後，炭を入れた後の水の状態を調べるため，２度目のパックテストを行う予定である。

また，育ててきたカワニナを放流し，継続して行っているクリーン作戦を定期的に行っていく。

〈川に炭を入れる活動〉

第５次　活動報告会でまとめ隊

２月に本校で地域でお世話になった方々をお招きして行われる「ふるさとありがとう集会」を最終活動報告の場として位置付け，地域の方や全校児童に，３．４年生が取り組んできたことを知らせて，まとめとしたい。

発表方法については，対象とする相手が変わるので，そのことも含めて今後検討させていきたい。

第６次　次の学習のために

学習を振り返る際，自分たちがやって来た活動のよさを味わわせ，次の学習への原動力とさせたい。３年生はこの学習を受けて次に深めていきたいことを，４年生は次の３．４年生に継続して活動してほしいことなどを話し合いながら，一連の学習を振り返り，地域のよさを改めて実感できる場となるようにしていきたい。

⑪　活動で工夫したことなどを記入してください。(800 字程度で簡潔に)

できるだけ児童から出た意見や考えから学習が進められるようにしたいと考え，専門家と出会わせる機会を多く取り入れるよう考慮した。東広島市役所で行っている「生涯学習まちづくり出前講座」（環境対策課）では川での生き物探しから水質を考えさせ，ホタルについて長年地域ぐるみで取組をしている市内小学校の３．４年生児童との交流の中からで自分たちにできることを見つけさせた。また，新聞社主催の地元企業による「水の役割教室」で水を汚さない工夫や自然の浄化作用について知らせてもらい，それを受けて地域の方と一緒に炭を作る活動や炭について学ぶ機会を得た。これらの活動を通して，児童は自らの考えを深めたりより良い行動をとろうと努力したりすることができた。

次に，これらの方との活動を１回で終わらせず，悩んだときにはいつでも質問ができるようにお願いをしておいた。生き物の名前を尋ねたり自分たちの活動のアイディアが浮かんだ時に支援していただいたりすることができ，学習意欲を継続させながら活動を進めることができた。

さらに，活動してきたことを地域や交流している小学校，さらに市役所で報告する機会をもった。このことは，先に書いた通り交流を継続してきたからできたことであるが，何度か自分たちの活動をふり返って考えたりまとめたりすることで取り組んできたことの意味や自分たちの思いを確認したり新たな活動のヒントを得たりすることにもつながった。

⑫　この活動を通して、指導者から見た子どもたちの意識の変化、行動の変化などがあれば記入してください。
(800 字程度で簡潔に)

本校の児童は豊かな自然の中でまた地域の方の温かいご支援のおかげで，ふだんから育てている植物への水やりを欠かさず行うなど，自然や動植物を大切に思い，生活することができている。この活動を通して，身近なところからできることをすることへの意識がより高まったように感じる。例えば，掃除のときのバケツに入れる水の量を適量にするとか，手洗いのときの石鹸や流す水の量を考えるとか，食べ残しをなくすなどの小さな取組ではあるが，それを続けることができるのは，生き物を大切にすることにつながるという意識の表れであると思う。低学年の児童に「水を使いすぎないでね。」などの声掛けをしている児童もいる。

また，児童は，校外へ活動に出かけるときには軍手やごみ袋火ばさみなどを進んで持参し，クリーン作戦を進んで行っている。このような自主的な活動ができるようになったことも，学習の積み重ねによると感じる。

進級すると総合的な学習の時間の活動テーマが変わるかもしれないが，４年生児童はホタルを増やす取組は始めたばかりで成果が見えないので継続したいし下の学年に引き継ぎたいと考え，３年生もホタルが今よりもっと増える様子を見たいと思っている。このように感じていることも学習の成果だと思う。

※こども発表者については、決まっていない場合、記入しなくても構いません。

⑬　-1. 選考された場合の発表者（こども２名）の氏名・学年	
氏名（ふりがな）	学年：
氏名（ふりがな）	学年：
-2. 選考された場合の大人の登壇者（１名）の氏名・所属	
氏名（ふりがな）	

※この用紙には活動に参加したこどもたちが自由に書いてください。

2014 こどもホタレンジャー報告書

活動して「気付いたこと、感じたこと、考えたこと」などを、みんなで話し合って自由に報告してください。写真や絵などでもOKです。

吉川はたくさんのすてきがあるので、ホタルをもっとふやして吉川のすてきももっとふやしたいです。
4年

吉川はいろいろな行事があるしすてきなことがたくさんあって吉川はいいなと思いました。
4年

吉川は自然がいっぱいで、すてきな所なので、その「すてき」をもっとふやしていき吉川はすてきがいっぱい!!と言ってもらえるようにがんばりたいです。四年

吉川の他の人の為にアンケートをとるとホタルが昔の方がおった」とあったので水をきれいにしてホタルをふやして今の方が多いと言われるようにしたいです。4年

私のチームは、パックテストや廃油石けんを作って、これで吉川がもっとすてきになるといいです。
4年

私は、吉川の、吉河川の、水はホタルがすめる「きれいな水」という事が分かったので、吉川の自然を守り、さらに、ホタル、生き物、自然がもっとふえて、吉川がもっとよくなるようにしたいです。
4年

ぼく達は、炭は水をきれいにすると聞いたので炭焼き体験をしたり川に炭をまいてきました。だからホタルもすてきもいっしょにふえたらいいです。
四年

ぼくたちのチームは、カワニナを実さいに育てて、放流しようとしています。カワニナが大きくなって、ホタルが大きく育ってくれたらいいと思います。
4年

今までの「川たんけん」や「炭焼体験」などいろいろな活動や体験をしてきて、吉川のすてきやホタルのことが前よりくわしくなりました。ホタルがふえてくれたかどうかは分からないけどふえてくれたらうれしいです。4年

私達は、吉川の自然の一つ「ホタル」をふやそうといろいろな活動をしてきました。たとえば「川に炭をまく」「クリーン作戦」などです。この活動も自然につながるので広めていきたいです。
4年

吉川にはたくさんの自然があって、ホタルもたくさんふやして、もっとすてきな吉川になるといいです。4年

今までホタルの事を調べてきて、ふるさと吉川のためにたくさんホタルを増やして、「ホタルの舞う吉川」を目指したいです。
4年

今までやってきてかんきょうがよくなりホタルがたくさんふえるとてもうれしいです。
四年

クリーン大作せんやパックテストをしてきた事を吉川いがいの人に教えて「水を大切にしてほしいです。
3年

ほたるホタルの事を調べてきたことを吉川いがいの人たちに教えてあげたい。3年

今までやってきて水をきれいにしたら来年からホタルがふえたらいいなと思いました。
3年